文化で滋賀を元気に！

第５６回　滋賀県芸術文化祭参加

令和８年 第43回藤樹先生書道展 開催要項

藤樹先生の御聖徳を敬慕し、書の上達を祈念し第43回書道展を開催致します。一人でも多く個性ある力作を出品してください。

1. 主　　催　NPO法人心のふるさと書道会
2. 会　　期　令和８年１０月４日（日）～１０月１１日（日）
3. 会　　場　高島市藤樹の里文化芸術会館
4. 応募資格　高校生以上の方
   １．委嘱出品者　本展で無鑑査奨励賞受賞の方
   ２．無　鑑　査　市展特選又は本展で特選２回以上取得の方
   ３．一　　般　上記以外の方
5. 課　　題　要項に示した藤樹先生のことばの中から書くこと
6. 応募規定　１．規格　画仙紙半切（135㎝×34.5㎝）縦長に書くこと
   ２．体裁　仮巻軸にはって出品すること
7. 出 品 料　一点 １,０００円
   （9月17日、18日に藤樹の里文化芸術会館までご持参ください。
   ご遠方の方等は、下記口座までお振込ください。
   振込先　ゆうちょ銀行振替口座
   振替口座　００９８０－３－２１００６８
   口座名義 特定非営利活動法人　心のふるさと書道会）
8. 出品点数　一人一点
9. 出品手続　出品票に、郵便番号・住所・氏名・電話番号を記入し、
   Aは仮巻軸の巻き終えた上に添付すること
   Bは出品作品の下に貼りつけること
   団体出品される方は出品目録を提出すること

氏名と町名または大字名

10. 応募期間　１．令和８年９月１７日（木）・ ９月１８日（金）２日間
    午前１０時より午後５時までに次の場所まで
    ２．搬 入 場 所　高島市藤樹の里文化芸術会館
    ※送付される場合は次の住所へ９月１８日（金）必着でお願いします。
    送　付　先　〒520-1212　滋賀県高島市安曇川町西万木８２８－２
    野上写真館３Ｆ ＮＰＯ法人 心のふるさと書道会藤樹展担当あて
11. 審　　査　令和８年10月３日（土）１２時より
12. 入賞発表　審査の後、本人あて通知致します。
    １．無鑑査奨励賞５点
    ２．特選（県芸術祭奨励賞他）　20点
    ３．佳作　30点
13. 表 彰 式　令和８年１０月１１日（日）午後3時より（予定）
14. 作品搬出　令和８年１０月１１日（日）午後4時より搬出
    搬出に来られない方については着払いで返送します。
15. 後　　援　高島市・高島市教育委員会・レーク滋賀農業協同組合・NPO法人高島藤樹会・高島市美術協会・（公財）藤樹書院・朝日新聞大津総局・京都新聞　・産経新聞社・読売新聞大津支局・毎日新聞大津支局・西嶺会・澄心会・(株)呉竹・攀桂堂・(株)墨運堂・創楽
16. 問 合 先　藤樹先生書道展　事務担当　駒井　090－9714－7677

第43回 藤樹先生書道展課題

注:明朝(　)内は読み下し
【　】内は解説

(二　字) ① **清晨**　(せいしん)
【藤樹先生は、毎日、鶏鳴の早朝に起床され、門人とともに『孝経』を拝誦された。】

② **眞樂**　(しんらく)
【本当の楽しみは物質的なものでなく、心のよろこびにある。】

③ **誠意**　(いをまことにする)
【意は万欲百悪のみなもとであると先生はいう。その意を取り除くことが誠意である。】

④ **明徳**　(めいとく)
【天地の心そのものが、すべての人間の心にひとしく具わって「明徳」と称している。】

(三　字) ① **心之聲**　(心のこえ)
【先生は、ことばは心の声だという。だから普段の人との会話のなかに人格が現われる。】

② **無盡藏**　(むじんぞう)
【世間のいう財産はいつかは失うけれども、「明徳」という財産は尽きることはない。】

③ **通天地**　(天地につうず)
【すべての人間に具わった「明徳」を発揮すれば、それは天地の心にも通じることになる。】

④ **第一義**　(だいいちぎ)
【第一義とは人としてもっとも大事なこと。それを生涯かけて説き示したのが先生であった。】

(四　字) ① **戒愼恐懼**　(かいしん・きょうく)
【つねに気を張りつめて用心し、恐れかしこまる態度こそが自身に徳を積むことにつながる。】

② **謙者虛也**　(けんはきょなり)
【謙というのは、謙虚という成語があるようにいつわりないことばや態度をいう。】

③ **此生難得**　(このせい　得がたし)
【今、この地球上で生を得られたこと自体、むつかしいものなのだ。】

④ **此道難聞**　(このみち　聞きがたし)
【この道とは孔孟の教えをいう。それを聴聞すること自体、むつかしいものなのだ。】

(五　字) ① **心裏之靈宝**　(しんりのれいほう)
【人間の心のなかに具わった霊妙なたから、これが「明徳」と呼ばれている。】

② **爲善如耕耘**　(ぜんをなすは耕耘のごとし)
【りっぱな行いを実践するというのは、汗水ながして田畑をたがやすようなものである。】

③ **人之生也直**　(ひとの生くるやなおし)
【人間の生まれつきは、素直なものである。それがいつの間にか心がねじけてしまう。】

④ **明月不沈波**　(めいげつ　波にしずまず)
【明月とは「明徳」を意味する。その明徳は未来永劫にわたって滅びることはない。】

(六　字) ① **聖賢四書五經**　(せいけん・ししょごきょう)
【天の道・人の道を説き示した聖人や賢人、それを書物に著わした四書と五経。】

② **天下無双靈寶**　(てんかむそうのれいほう)
【われわれの住む世界にふたつとない霊妙な宝、それが「明徳」「良知」と呼ばれるもの。】

③ **天道純粋至善**　(てんどうは　じゅんすい・しぜん)
【天道には天の神明の意志があって、その意志は純粋にして最高の善にほかならない。】

④ **玄聖素王之道**　(げんせいそおうのみち)
【孔子のように聖人でありながら無位無冠に終わった人。先生もそのひとりといえる。】

（七　字）① **畏天尊性莫懐居**　（天をおそれ性をたっとび、居をいだくなかれ）
【天命をおそれ徳性をたっとんで、自身のおかれている環境に心を振り回されるな。】

② **世事紛紛以己憂**　（せじのふんぷんたるは、己れをもってうれう）
【世の中のさまざまな出来事は、ただ自身の心によって思い悩むのである。】

③ **誠意工夫純不已**　（せいいのくふう、じゅんにしてやまざれば）
【ひたすら意をまことにして工夫し、専一に実行していくならば、】

④ **孔顔至樂自茲求**　（こうがんのしらく、ここよりもとめん）
【孔子や顔回の得た最高のよろこびは、ここに求めることができるのである。】

（和　歌）① **おもひ出は學しもとの心より　千里を通ふ誠わするな。**
【道をもとめて大洲から遠い近江にまでやって来た、その誠実の心を忘れてはならない。】

② **身の外に何求むらん昧からぬ　こゝろすなはち聖人の本。**
【身外のなにを求めようとするのか、自身の心こそが聖人となる根本にほかならない。】

③ **月かげのいたらぬ里はなけれども　詠る人の心にぞすむ**
【月のひかりの及ばないところはないが、それを意識する人の心に月のひかりがある。】

（調和体）① **良知に致れば善常に心の主たり。**
【良知を発揮すれば、善徳はつねにその人のこころの主人公となる。】

② **良知は是非の鏡にて善悪に暗からぬ物。**
【良知というのは善悪を分別する鏡なので、正しいことと間違ったことが判断できる。】

③ **眞志さへ立候へば良知は従ひ安し。**
【まことのこころざしさえ立てれば、おのずと良知は発揮されるのである。】

※課題については、組み合わせることもできます。読み下しを調和体等で作品にすることもできます。

（撰・釈文　中江　彰）

キリトリセン

出品票Ⓐは仮巻の巻き終えた上に添付し、Ⓑ票は出品作品の下に貼りつけること。

Ⓐ　令和８年　第43回　藤樹先生書道展				団体番号	資格（○印でかこむ）
所属名又は団体名		代表者			1．委嘱 2．無鑑査 3．一般
フリガナ					
氏名					
住所	〒			電話番号	

キリトリセン

Ⓑ　令和８年　第43回　藤樹先生書道展	
氏名	
住所	

（市町村名をご記入下さい。）

講演会のお知らせ（予告）

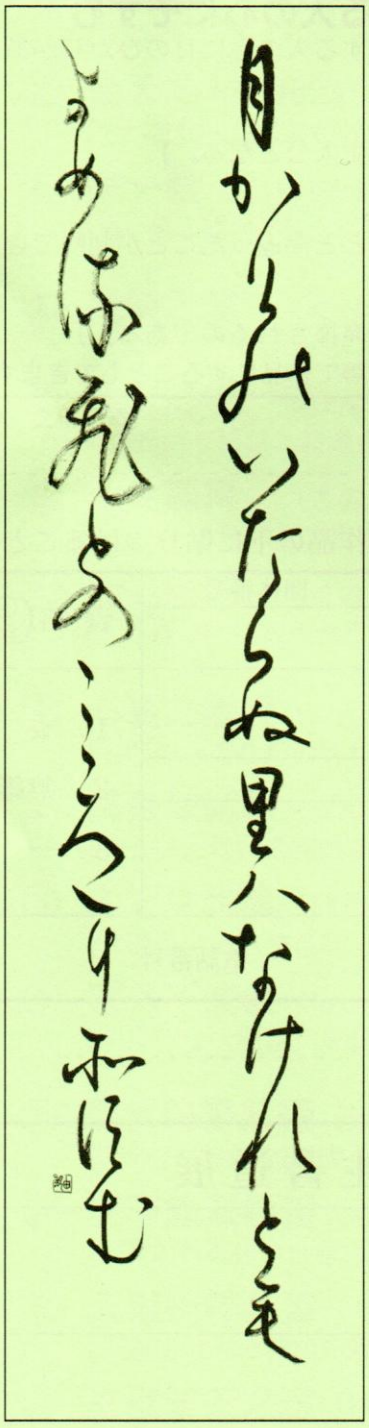
演　題	「藤樹先生の手紙を味わう」
講　師	中江　彰　先生 元近江聖人中江藤樹記念館館長 国際中江藤樹思想学会理事長
日　時	令和８年１０月３日（土）　１６：００～
場　所	藤樹の里文化芸術会館
参加費	無　料

＜参考作品＞

「畏天尊性莫懐居」

天命をおそれ徳性をたっとんで、自身のおかれている環境に心を振り回されるな。

北川幾美　書



「月かげのいたらぬ里はなけれども　詠る人の心にぞすむ」

月のひかりの及ばないところはないが、それを意識する人の心に月のひかりがある。

河原田　由湖　書